
レッツZATUDAN

ギルバート・デュランダル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レッツZATUDAN

【Nコード】

N5141Y

【作者名】

ギルバート・デュランダル

【あらすじ】

まさに雑談！みんなの意見も聞いちゃう場所だお 詳しくは説明DARO を読んでね！

（ちなみに趣味で怪談をする時があるよ！）

説明DARO（前書き）

今回からスタート！

説明 D A R O

今回は最初なので説明だけですお

・ここはまさに雑談の場所なので、大抵なんでもOK！

・他の作者さんがここにくるのもぜんぜんOK！

・たまになんかの外伝もします。

・なのでキャラのぶち壊れもOK！（自分が書くんだけどね；）

・他の作者さん（俺以外の人という意味）が誕生日や、重大な発表がある時は、俺にメッセージを送ってくればここでその発表がで
きます！

・→のことは感想でもできますよ！

・評価はいらないれふ。（したい人はしてもOK）

・読者さんも感想OKだよ！でも荒らしがあつた場合は、いろいろ
考えてもしかしたら非公開になるかも。

説明DARO（後書き）

コラボでここに来るのはぜんぜんOKです！（むしろしてください）

方法はメッセージ、感想、どちらでもOKです！

ぜひ、お願いします！

怪談その一（前書き）

それではこれから怪談しますので、ホラーは駄目！って言う人は見ないほうがいいかも・・・；

ちなみに怪談は全部俺の創作です。ホントにムズかった；（本当は趣味で書いた物だから怖さがあるかどうかすら分からない；）

それではどうぞ！

この怪談には必ず謎が含まれています。後書きには一応答えが書いてありますが、それは見ずに自分で答えを考えてみてください。

怪談その一

フフフ・・・来てしまいましたネ・・・来たカラには見てく
ださいね・・・そうでナいと【呪われる】かもしれマせんよ・・・
分かりましタね？・・・フフフフ・・・

それデは怪談の始まり始まりフフフフ・・・

8階に住んでいる

仕事が忙しく帰りはいつも深夜だ

にわか雨が肩を濡らすのが気持ちいいくらいに思っていた。

ただ、いつもは明るいはずのエレベーターホールがやけに暗く見えた。

暗いのもすぐに理由がわかった。

何本かの蛍光灯の1本が切れている

今に始まったことじゃない。ココの管理人は仕事が遅い

エレベーターが1階に着きドアが開いてギョツとした

中に人が居る・・・ドアに背を向けじっと立っている

赤いリボンと赤のワンピース女だ

乗り込むのを一瞬躊躇したが乗らないのも変なのでそっと入り込んだ

女に背を向けた状態で8階を押した。

ボタンがどれも押してないことに気が尽き失敗したとすぐに思った。

自分の住んでる階を押しなかった

階上ランプを見つめながらエレベーターってこんなに遅かったかって考えていた

女は後ろを向いたままじっとして動かない

8階に着きエレベーターを降りたが女は変わらず後ろを向いている

部屋に着き少し落ち着きシャワーを浴びた

ビールを飲み二缶目を飲もうとして冷蔵庫が空なのに気づいた

近くにコンビニがある。サンダルを引っ掛けエレベーターを呼んだ
ドアが開くと女が乗っていた
さっきと同じ格好で背を向けじっと動かない

今度は乗れなかった

怪談その一（後書き）

これでその一終了です。まあ趣味でやってるので気が向いたら書きますよ

というか大抵は前から思いついてたネタですけどね；

それでは謎解明

←解説

1階から乗ったときは照明が暗くて気づかなかったが8階から乗るときにロープが見えて女が首を吊って死んでいることに気づいた

く怪談くめんどくさいから一気に2つ（前書き）

はい。文字をかせぐのが面倒なので一気に2つ書きます。

趣味って恐ろしいねーいやでも思いつくし。

逃走中がこんな進み方すれば大助かりなんだけどなあ・・・

く怪談くめんどくさいから一気に2つ

・・・前書きでも書きましたが、いちいちねちっこく言って文字かせぎするのも面倒なので2つ書きます。ちゃんと区別して書きますが解説のことか気をつけてくださいね？

・・・これでもうかせいでいる気がするのは俺だけ？

『優しいお姉ちゃん』

私は13才の中学生

三つ上のお姉ちゃんとは部屋を共用していてとても仲良し

一つしかないベッドを私に譲ってくれるとても優しいお姉ちゃん

今日もいつものように寝る前に二人で仲良くトランプしたあと二人同時に就寝

私はベッド、お姉ちゃんは床にひいた布団

わたしは30分も経たないうちに眠りについた。

何時間経ったあとのことだったのだろうか

「ねえ、起きて」 寝ぼけ半分で目をあけるとおねえちゃんが小声で囁いている。

どうやら寝付けならしく、一緒に散歩に行かないかと言っている。

私は眠かったのもあり「一人で行ってきなよ」と冷たく押し返したが、

やけにしつこいお姉ちゃん。

終いには乗り気でない私に郷を煮やしたのか私の手を掴み靴も履かず外に引っ張り出された。

「イタイ！」

私の叫びも耳に入らないのか私の手を強く掴んだまま何も言わずただ引っ張る。

「ねえ！どうしたの？！」

お姉ちゃんは黙っている。よく見ると手は小刻みに震えていた。

家からしばらく離れたところでお姉ちゃんも少し落ち着いてきたのか、掴んだ手が少し緩んだのを感じ

もう一度問いただしてみた。

「何があつたの?」

お姉ちゃんは唇を震わせ言った

「やっぱりあんた気づいてなかったのね…」

『お星さま』

少女のところにお星さまが降り立ちました。

「なんでも一つ願いをかなえてあげよう」

お星さまはいいいました。

少女は泣いていました。

「家族を消してちょうだい！あんな家族、まっぴらよ！」

次の日、少女が目覚まして一階へおりと、いつものようにおかあさんと

おとうさんとおにいちゃんがいました。

少女は後悔しました。

その夜、再びお星さまは少女の目の前にあらわれました。

「気に入ってもらえたかな」

少女はいいいました。

「昨日のおねがいをとりけしてちょうだい」

お星さまはいいいました。

「一度かなえたおねがいはとりけせないよ」

少女は泣きました。

どうでしたか？あまり怖くなくても文句は言わせませんよ！だって趣味で書いてるだけなんだもの。

次回もお楽しみに！

く怪談くめんどくさいから一気に2つ（後書き）

『優しいお姉ちゃん』の解説

←解説

主人公からは見えず、お姉ちゃんからは見える位置、つまりベッドの下に何かがいた…

『お星さま』の解説

←解説

一階にいたおかあさんたちとは血のつながっていない義理の家族で本物の家族を消してしまった

次の日に義理の家族が消えていないことを知って後悔する

（主人公は義理の家族だったことを知らなかったが、朝起きてまだ家族がいたことで知った）

趣味で思いついたものを書くときりするね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5141y/>

レッツZATUDAN

2011年12月7日10時56分発行